

津幡の空から

石川県学校生活協同組合

2020・3月号

石川県学校生活協創立 71 周年（組合員とともに 70 年 これまでも これからも）

2019 年度もう終わります！

ご愛顧ありがとうございました！

—2020 年度 黒字をめざして、考えます、提案します、応えて下さい—

石川県学校生活協同組合の 2019 年度は創立 70 周年の記念の年でした。通常であれば、これを祝しての式典をするものですが、現状を踏まえ式典はひかえました。その代り組合員に何か感謝の意を示す行事をしようと考えました。その結果が、7月の加賀地区でボウリング大会、10月の金沢地区でサッカー観戦、3月の能登地区で演劇鑑賞です。



あまり経費をかけないで、組合員に楽しんでもらえるものにしようと考えだしたものです。どの行事も予定人数を越え、うれしい悲鳴をあげました。お金がない方が良く考えるものです。これらの教訓は 2020 年度にも活きると思います。また、お金をかけないで喜んでもらえる行事を考え、提案しますので、これらにしっかりと答えて下さい。お願いします。

2020 年度の活動に「社会貢献」をメインに考えています。3 大行事（中身は未定）、全員利用運動、災害支援運動等に必ず「社会貢献」を入れます。どのようなものが入っているかを楽しみにしててください。また御協力をお願いします。

1 月末経常剰余金決算 1,486 万円の赤字。計画よりは 858 万円の悪化！

石川県学校生活協の 2019 年度 1 月末決算は、経常剰余金 1,486 万円の赤字です。その状況を詳しく見てみますと、順調な事業は、カタログ 107%、住宅リフォーム事業 160%の 2 事業です。厳しい事業は共同購入 86%、営業 87%です。私たち職員が担っている自主供給事業は、目標比 93%でした。指定店供給も低調で推移し 93%の結果でした。自主供給、指定店供給とも目標より 7%下回った結果となっています。あと 2 か月で目標突破ということは現実的には厳しい状況となっています。でも職員一同頑張っていますので、これからもよろしくお願いします。

石川県学校生活協同組合は、県内の教職員を対象とした職域生協です。学校という職場の中で教職員の生活を共同で守り向上させることを目的に結集した福利厚生組織であり、石川県の教職員の自主福祉活動や消費者運動の拠点になっています。

「白鳥の湖」 北本 豊春

二〇二〇年一月一日、キエフバレエ団の至宝エレーナ・フィリピエワによる最後の『白鳥の湖』公演がありました。アンコールが五回。カーテンコールが二回。観衆がスタンディングオベーションで喝采すると言う、誠に見事な公演でした。十年間に渡ってフィリピエワの『白鳥の湖』を観てきましたが、最終の公演では、入魂の演技が観衆を感動の渦に巻き込みました。カーテンコールでのオデットとして動きは、実に滑らかであり、優雅なものでした。バレエが、体表現による、豊かな芸術であることを、殊更に深く語りかけるものです。『白鳥の湖』では、プリマバレリーナが、オデットとオデイルと言う、二つの難しい役を熟す必要があります。正義と優美の象徴であるオデットと、邪悪と蠱惑の象徴である妖怪オデイルの二役を演じることは、正反対の心象を要求されることから、演技者にとっては、一際難しい課題となるのです。フィリピエワも、この点を強調しています。『白鳥の湖』には、二通りの幕切れがあります。一方では、悪魔のロットバルトと王子ジークフリートが戦って、王子が悪魔を倒し、オデットと結ばれると言う幕切れになります。他方では、ロットバルトの策略に陥った王子が妖怪オデイルに求婚し、ロットバルトが、オデット姫を冥界に連れ去ってしまうと言う幕切れになります。キエフバレエの場合にはハッピーエンドになりますので『愛と正義は勝つ』と言う幕切れが共感を誘います。

編集後記

最初は「ジャガイモ」から！
私は三月が待ち遠しいです。ビニールハウスを三棟持っているのですが、やはりハウスより露地の野菜づくりの方が楽しみです。最初は、春分の日ジャガイモの種イモ植えです。これは記念日の様に毎年同じで、ここがスタートという意味もあります。ですから、その日までに畑を耕し、肥料を施し、畝をたて、マルチを張っておかねばなりません。それで、三月に入ったら、天気の良い日は畑の世話をし続けます。ジャガイモの次は、里芋、丸いも、ズッキーニ、かぼちゃ、スイカ、黒瓜、そしてナス、サツマイモと続き、畑一面に作物苗の定植が終わるのは、6月末です。それまでは、毎日、毎日コツコツと作業を続けます。この中で、最初の収穫はたぶんズッキーニになると思います。忙しいですが、楽しみです。（道祐）